



創立30周年記念式典 挙行

11月18日（土）14時半から、八戸プラザホテルにて八戸商工会議所青年部創立30周年の記念式典を挙行了しました。

国土交通省東北地方整備局八戸港湾・空港整備事務所長の加藤訓生様をはじめとする多くのご来賓の皆様や、全国各地の同志であるYEGメンバーにご出席いただきました。

オープニングは、八戸YEGのこれまでの歩みを記録したビデオで開会。その後、国歌斉唱を行いメンバーの中居翔三君と玉城みゆき君の美声が披露されました。

ご来賓の祝辞をいただいた後、歴代会長の感謝状贈呈があり、松尾明10代会長、佐々木伸夫11代会長、高畑紀子12代会長、西川禎13代会長、葛西慶信14代会長の順に柏崎瑞貴会長より感謝状が手渡され、5名を代表して10代会長の松尾様に「挨拶をいただきました」。

元気発信

YEG 青年部だより

第86号

平成29年度
八戸YEGスローガン

情熱を行動に

～歴史と伝統を次世代に繋ぐ
新たなYEGの礎を築き
求められるYEGに～

最後に、柏崎会長より八戸YEG創立30周年以降のビジョン発表がありました。『革新+進化=革進』を掲げ今後の活動において新たな取り組みを全体で応援し、支え、育てて行き、同時に地域経済に貢献できる内容を常に模索して「進化」し続けることで、地域から求められるYEGに成長していくという力強いメッセージを発信し、記念式典を閉会させていただきました。

今回の記念式典はみなと創生委員会が担当させていただきましたが、周年事業を経験した委員会メンバーが皆無でした。菊地優二郎委員長はじめ不安と緊張の中での運営となりましたが、皆様のご協力により滞りなく挙行することができました。ありがとうございました。

みなと創生委員会

担当副会長 榎 一郎

（株）味の海翁堂

30周年以降 ビジョンは「革進」

創立30周年記念式典では、30周年以降のビジョンを発表しました。ビジョンは「革新」と「進化」を組み合わせた「革進」です。

商工会議所青年部は、若き企業家集団です。自らの企業の発展を原点として、地域社会への貢献を考え、それぞれの夢に若さと情熱をもって積極果敢にチャレンジし、経済人としての

自己実現を図っていかなければなりません。

ビジョン策定に当たり私たちは、YEG宣言趣旨に盛り込まれている「自らの企業の発展を原点として」という言葉に注目しました。先輩方が実行されてきた「情報化」「国際化」「まちづくり」の3項目に「自社の活性化」を加えることで、YEG活動の目的をより明確化できると考えました。

時代の変化に合わせて事業、資源、組織を常に改善するためには、全体で「革新」を歓迎する必要があると思います。新たな取り組みを全体で応援し、支え、育てていく姿勢が求められます。また既存の事業でも、現状を維持するだけでは停滞してしまいます。地域経済に貢献できる内容を常に模索して「進化」し続けることで、地域に根差して地域から求められるYEGに成長できます。

30年間にわたって先輩方が多大な努力を払って引き継いできた伝統を守りつつ組織全体を革進し、「自社の活性化」「情報交流促進」「港湾振興」「まちづくり」の4項目を有機的につなげて、豊かで住みよい郷土づくりに貢献する「幸福の輪」を作り上げることを目指します。

八戸商工会議所青年部

会長 柏崎 瑞貴

（有）華コーポレーション

森永卓郎氏 記念講演

創立30周年記念式典終了後、経済アナリストで獨協大学教授の森永卓郎氏による記念講演が行われました。森永氏は現在の経済情勢を分かりやすく解説した上で、高付加価値化による経営改革の必要性を強調しました。

「変化の時代の企業経営」と題した記念講演で森永氏は、「アベノミクスによる成果は、ほぼ全てを一部の大企業と富裕層が独占しているのが実情。企業は内部留保を蓄えて株価を上げ、年間数億円もの報酬をもらう経営者も珍しくなくなった」と現在の情勢を説明。今後の経済の見通しとして「銀座の土地の値段はバブル経済のピーク時よりも高くなっている。東京五輪の建設需要がピークアウトする来年中に土地バブルが崩壊し、株価も下がるだろう。しかしは都



心3区のごく一部でしか発生していないミニバブルのため、影響はバブル経済崩壊時ほど大きくはないだろう」と解説しました。

さらに、「ミニバブル崩壊以降、本当の新しい成長トレンドが出てくると思う。しかし、中国と価格競争をするような消耗戦を展開してはならない」として、森永氏の持論である「日本人ラテン化運動」を推奨しました。

森永氏は「日本はイタリアを目指すべきだ」とした上で、「イタリア人が日本人ほど働かずに経済成長を続けている理由は、製品にアートを加えて高付加価値化を実現しているからだ」と説明。イタリア化を実現するために、「現場への権限移譲を進め、現場のアイデアを生かし、良い悪いは市場に判断してもらう」「経営者としてどんな場面に遭遇しても決して暗くならない」とアドバイスをして頂きました。

森永氏の時折冗談を交えた軽妙な語り口に会場は大いに盛り上がり、出席者は楽しみながら今後の自社の経営のヒントを探った様子でした。

総務・活性化委員会

委員長 熊谷 勝之

(株)デリーー東北新聞社

記念祝賀会大盛況

引き続き18時よりプラザアーバンホールにおいて祝賀会を開催しました。

当日は皆様に美味しいものを召し上がって頂きたく、沢山の屋台を用意しました。題して『食べくらべ対決！3本勝負！』。第1弾は、当青年部OBであり石巻YEG現役の宮本明先輩によるラーメン対八戸らーめん。第2弾は、三戸地方・割烹白山に伝わる川ガニを出汁にした秘伝のひつまじ対八戸せんべい汁。最後は、八戸プラザホテルの美味しい牛肉対倉石牛のサーロインステーキを用意致しました。提供数などの制限もありましたが、皆さんにご堪能頂けたものと思います。特に倉石牛の屋台は開始早々長蛇の列ができ大人気でした。さらに当地方を代表する地酒として、男山、菊駒、八鶴、桃川の4つの蔵から、それぞれの銘酒を2本づつ用意し、こちらでも楽しんで頂けたものと感じております。

祝宴中盤には、懐かしの映像として2007年の第26回東北プロロック大会八戸大会でPRキャラバンの映像が映し出され、八戸YEG歴代会長のめったに見られな

いダンスなどもありました。

続いて平井堅公認のモノマネで知られる民秋貴也による楽しいライブで盛り上がりしました。

さらに終盤間際には、関係各位と当青年部の栄えある未来を祈り、伝統芸能である階上町鳥谷部の子どもえんぶりが元氣一杯の摺りを見せてくれました。

おもてなしとして、屋台からの料理やお酒などを中心にメンバーが来賓席に運び、遠方からお越しになられ方々には、それぞれご縁のあるメンバーが労いと共に給仕致しました。県内外より多くの方々にお越し頂き、お陰様を持ちまして無事盛会裏に終えることが出来ました。改めて感謝申し上げます。

南部圏スクラム8委員会

担当副会長 大館 一法

(宗) 大慈寺



八戸で青森県YEG 第10回会員大会開催

11月18日（土）、八戸プラザホテルにて、青森県商工会議所青年部連合会第10回会員大会八戸大会が開催されました。

大会は八戸YEG創立30周年記念式典に先立ち開かれ、県連7単会の会員ら約80名が八戸の地に集まりました。

大会では中村知行県連会長の挨拶に続き、五所川原YEGから選出された今広樹次年度県連会長が決意表明を行い、出席者から大きな拍手を受けました。

今回の大会はセレモニーのみとなりましたが、会場の後方にドリンクブースを設け、おもてなしに力を入れました。

青森県商工会議所青年部連合会
専務理事 熊谷 勝之

(株)デリーー東北新聞社



30周年記念事業 フォトグラフ



国家斉唱



集合～写真



歴代会長に感謝状贈呈



式典 司会



日本YEG会長



付加価値とは！



地酒勢ぞろい



八戸小唄披露



おやくそく！



宮本明 OB も出店



おもてなし 専念！



焼売やお寿司等



懇親会 司会



マッチングステーション



すいとん



狙いは、肉？シェフ！！

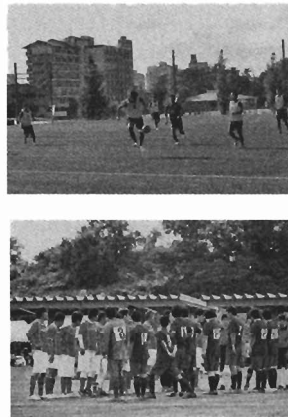


お見送り終了～。



八戸えんぶり

YEG 全国サッカー大会



9月22日(金)～24日(日)の日程で、商工会議所青年部第15回全国サッカー大会いわて七尾大会にメンバー15名で参加してきました。

八戸YEGは昨年のやまがた長井大会の大会に続いて2度目の参加です。マイクロバスを借り、片道9時間の移動では途中で多少のトラブルはありながらもメンバーで仲良く士気を高めました。

現地ではキャプテン会議に出席し、翌日に予選の3試合を戦い2勝1敗。惜しくも決勝トーナメントには進めませんでしたが、懇親会で多くのYEGメンバーとの交流を深めて、サッカー人脈を作りました。

長井大会でも七尾大会でも、受け入れ側の姿勢からは「この街を全国にアピールしたい」「集まった全国のメンバーに『もう一度この街に行ってみよう』と思っても

らいたい」との意気込みを強く感じました。地元を全国にPRするきっかけが全国サッカー大会だと思います。

サッカーは未経験者でも楽しめるスポーツです。誰でも気軽に参加出来るスポーツだからこそ、多くの全国YEGメンバーと交流ができ、仕事にもつながり、また単会の活性化にもつながると考えます。

今回の大会に参加した経験により、参加者だけではなく出場に協力していただいた皆さんとの絆も深まり、今後のYEG活動に大きく役立つものと感じました。

委員長 木田 茂雄
(有)サンキョウ企画



東北ブロック大会青森 ごしがわら大会に参加

9月1日(金)～3日(日)、日本商工会議所青年部「第36回東北ブロック大会青森ごしがわら大会」が五所川原市にて開催され、全国各地より1882名のご登録を頂き盛大に開催されました。また八戸YEGの皆様にも多数の参加を頂き感謝申し上げます。

本大会は、企業と地域社会の次代を担う青年経済人が交流と連携の輪を拡げ、企業の発展と豊かな地域社会の形成に果たす商工会議所の役割を認識し、その実現のために青年経済人として何をなすべきかを研究し研鑽することを目的として開催され、本県においては6回目、五所川原市では初の開催となりました。



主管県連ということで、八戸YEGからも飲食ブース、物販ブースを出店させて頂き、ご来県頂いた皆様には、ご当地グルメはもちろん、南部と津軽の文化の違いまでも存分にご堪能頂けたものと思います。

大会に先立ち開催された臨時総会では、次年度東北ブロック会長として五所川原YEGの中山佳君が選任され、次年度の同大会は秋田県大仙市大曲での開催が決まっております。平成29年度ブロック大会の主管県連として多くのメンバーで大曲へ行きましょう！

青森県商工会議所青年部連合会
会長 中村 知行

(有)中ペン塗装店

ジュニアエコノミークラッシュ 11チームが販売実践

9月24日(日)、八戸市中心街のパティオ13(三春屋南口広場)にて、起業体験プログラム「ジュニアエコノミークラッシュ」の販売実践会を開催しました。

今年で5回目の開催となる同プログラムには、市内の小学校7校から小学5・6年生49名が11チームに分かれて参加しました。

販売実践に先立ち、8月26日(土)、27日(日)には県立種差少年自然の家でアクティブセミナー



を開き、合宿形式で挨拶や接客などのビジネスマナー、商品の原価と付加価値から売価を設定する考え方、帳簿の付け方等を学んでもらい、販売時の商品PRの仕方や店舗ディスプレイを考え、それを銀行役にプレゼンしました。また館鼻岸壁朝市を見学し、商品PRや店舗ディスプレイ等の参考にしました。

販売実践は「はちのへホコテン」開催に併せて、初の屋外出店となりました。各チームともお店のディスプレイや衣装に工夫を凝らしており、販売開始から元気な声がかだましていました。終了前に完売した店、売り切ることができなかった店さまざまでしたが、全チームとも販売の楽しさと厳しさを学んだようでした。

10月15日(日)には八戸商工会館において、まとめセミナー・決算発表・表彰式を行いました。利益額を含めこれまでの活動を採点したものを集計した結果、吹上小学校の(株)輝け吹上クラフトがグランプリを獲得しました。

最後に、このジュニアエコを支えて頂いたボランティアの皆様、そして何より、参加してくれた子供達とサポートして頂いた保護者の皆様に感謝しております。本当に

ありがとうございました。
みらい人財委員会

委員長 清野 大輔

清野社労士事務所

ヴァンラーレホーム戦で

YEGブース出展

スポーツまちおこし委員会では、ダイハツスタジアムで開催されたヴァンラーレ八戸ホーム戦にてブース出展を行いました。八戸YEGとしては3年目の取り組みになります。試合や飲食だけではなく、スタジアムに来てくれた方にさらに楽しんでもらえる部分など思い企画しております。射的やキックビンゴ、子ども用乗り物など縁日風出し物で、今年も大好評でした。一人でも多くの皆さんがスタジ



アムに足を伸ばし、このまちからJリーグのチームが誕生する一助になればと考えております。

スポーツまちおこし委員会

副委員長 石橋 信雄

大丸商事(有)

八戸圏域連携

中核都市圏。講演会

ふるさと活性化委員会

11月19日(日)、南部圏まちづくり推進協議会ふるさと活性化委員会主催の講演会が、おいらせ町の月見旅館で開かれ、南部圏スクラム8委員会として出席しました。

講演会では、八戸市子育て支援課の工藤俊憲課長が務め、連携中核都市圏の基礎について勉強しました。その後開かれた会議では、今年度からナニヤ婚の後継事業を主管する八戸圏域連携中核都市圏縁結び支援事業協議会として、当日スタッフの参加状況を含め主要事項を確認しました。また、12月2・3日に開催するふるさとフェスタ2017についても経過報告及び今後の段取りを協議し閉会致しました。懇親会では、近隣の商工会青年部メンバーと結束を誓いつつ親睦を深めました。

南部圏スクラム8委員会

副委員長 田村 哲章

八戸印刷工業(株)

八戸酒造にて

9月定例会

9月12日(火)、八戸酒造で9月定例会を開催しました。

みなと創生委員会らしく、海の近くで定例会を開催したいという企画が採用され開催に至りました。

研修会ではジェトロ青森事務所の奥貴史所長に「貿易の観点から考える八戸市の活性化」と題してご講演を頂き、八戸地域の特性を生かした貿易拡大の可能性を学びました。

懇親会は屋外にてバーベキューや利き酒大会で大いに盛り上がりました。また、YEGの先輩である同社駒井庄三郎社長より「『みなと』をキーワードに八戸を盛りあげてほしい」とのお話も頂きました。



奥所長の講演、駒井社長のお話
しから、八戸の
みなとに関わる
新事業を立案する
必要性を強く
感じました。
委員会メンバ
ー全員で取り組
んでいきたいと思
います。

みなと創生委員会

委員長 菊地 優一郎

吉田産業(株)八戸支店

2017 八戸港カッターレース
悪天候で中止

7月23日(日)、開催予定だった八戸YEG共催の「八戸港カッターレース2017」が雨天のために中止となりました。10周年の記念大会で、自作の記念ユニフォームを着用して臨む予定だった参加者もあり、皆が楽しみにしていただけに残念ムードが漂っていました。それでも県内外からお越し頂いたYEGメンバーとBBQを楽しみながら親睦を深めました。

みなと創生委員会

副委員長 松橋 里実

(株)松橋不動産

Aライン協議会
in久慈地方産業まつり

10月14日(土)、15日(日)の二日間、今年度のAライン協議会の最初の事業として、第48回久慈地方産業まつりに出向いて出店協力をしました。各単会地域の「自慢の逸品」を販売し好評をいただきました。今回は昨年度より交流が始まった「北緯40°Bライン連携軸推進協議会」

のメンバーにも出店協力していただき、今後はAライン・Bラインでより活発に交流したいと考えています。



Aライン協議会

直前会長 島守 英樹

(株)島守ダクト

YEG
おもしろい話

私の趣味は釣りです。皆さんご存知の映画「釣りバカ日誌」の主人公は、仕事への向上心や出世欲を全く持っていませんが、何故か大きな仕事を成し遂げます。

「映画の話だろう」とは言うなかれ。釣りという遊びの中には、ビジネス・スキルアップに直結することが数多く潜んでいるのです。

どんな方向から攻める？深さは？場所は何処が良いか？その根拠は？などなど、仕事と一緒に戦略が必要なのです。

糸を垂らせば釣れる事もあるでしょう。でも、それだけでは本当の喜びは得られません。戦略を練り上げて、数多く釣りたい、大物を釣りたいという願いを叶えた時にこそ、醍醐味を味わえます。

今年度、当青年部は創立30周年を迎えました。記念事業を行うためには、どんな方向性で行くか？その根拠は？などなど、その時々戦略が必要不可欠でした。

そう考えれば、釣りも青年部活動も同じく奥が深く楽しいでしょう？

総務・活性化委員会

担当副会長 村上 光彦

(株)アイズ

編集後記

創立30周年事業から約2週間後の発行となりました。本当にきついスケジュールでしたが、皆様に新鮮な情報をお届けすることができたと思います。鬼デスクのため執筆協力してくれたメンバーの皆さんには感謝の一言です。

総務・活性化委員会

委員長 熊谷 勝之

(株)デーリー東北新聞社